

第1回 宇都宮市総合計画市民懇談会 議事要旨

日程：令和3年11月26日（金）午前10時00分～

場所：市役所14大会議室

発言者	意見
事務局 市長	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>第6次総合計画が策定され、その間に様々な事象が起こった。ご存じの通り、気候変動による台風第19号をはじめ、自然災害が猛威をふるっていること、また、少子化による人口減少社会の進行、超高齢化社会、デジタル技術の革新的な進歩など、目まぐるしく状況が変化している。そのような中で、更なるまちづくりを進めていくことが求められる。</p> <p>そのためには、やはり持続的に発展ができるまちづくりが肝要であると考え。そこで、宇都宮市が掲げているのが、全国に先駆けた「スーパースマートシティ」という考え方である。お手元の資料の中に、12月1日の広報誌に掲載予定の記事やイラストを配付したので、後ほどご覧いただきたい。</p> <p>具体的には、ネットワーク型コンパクトシティという新しい都市の基盤を構築することで、人口減少や超高齢化社会の中にあっても持続できるまちの基礎を作り上げ、公共交通が発達し、経済の循環、脱炭素社会、地域共生社会などを柱にして、宇都宮市を持続可能なまち、つまりは「スーパースマートシティ」に発展させるものである。</p> <p>これが全国のモデルになるものと考えている。また、これを積極果敢に進めていかないと、次の世代に負担をかけてしまう。あるいは、解決できない社会を譲り渡すことになってしまうと危惧している。よって、残されたチャンスは我々の時代だけと考え、この機を逃さずに次の世代のためにまちづくりを進めていきたい。</p> <p>そのためには、行政だけではなく、地域に住んでいる皆様、各分野で先駆的な取組をされている皆様のお知恵を拝借し、皆様と共に宇都宮の持続可能なスーパースマートシティをつくり上げていきたい。</p>

	委員の皆様には大変ご苦勞をおかけするが、ぜひお力を賜りますようお願いしたい。
事務局	3 懇談会委員紹介 各委員の紹介
事務局 委員一同	4 議事 (1) 第6次宇都宮市総合計画の概要について 資料1の説明 只今の説明について、何か質問等はあるか。 特になし
事務局 委員一同	(2) 市民懇談会について 資料2及び資料2 別紙の説明 只今の説明について、何か質問等はあるか。 特になし
事務局 檜原委員 事務局 委員一同 事務局 委員一同 事務局 横尾会長	(3) 会長の選出について 資料3の説明 互選の方法や推薦など意見はあるか。 会長について、第5次総合計画後期基本計画と第6次宇都宮市総合計画の策定時にも委員を歴任されてきた、宇都宮大学の横尾委員にお願いしてはいかがか。 その他に意見はあるか。 特になし 他に意見がないので、横尾委員に会長をお願いすることとしてよいか。拍手をもって承認いただきたい。 拍手 それでは、横尾会長より挨拶をいただきたい。 会長の任を賜り、色々な不手際もあるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。 本日は対面で会議を開催できて良かったと思う。宇都宮大学においても、学生がキャンパスに登校できない日々が長く続いた。私自身も前回の総合計画策定時にはこのような事態を全く想定していなかった。大きな変化が起こっていると感じており、

<p>事務局</p> <p>横尾会長</p> <p>事務局</p> <p>横尾会長</p> <p>委員一同</p> <p>横尾会長</p>	<p>不安と戸惑いの多い日々を過ごしているが、いくつかの未来に対する光を感じている。大学生たちが、大学に来られない中、自分達で居場所をつくるために空き家等のオーナーに自主的に交渉して場所を借り、リノベーション等を行い、自分達の居場所づくりを進めるなど、宇都宮市のあちこちで活動している。若い人達に大きな変化が起こっている中で、できることを見つけながら頑張っている姿を見て、宇都宮市の未来は明るいと感じた。</p> <p>総合計画の中で、次の世代の人達に対しても、安全・安心で全ての人活躍できる社会を届けられるような計画としていきたいと考える。</p> <p>(4) 副会長及び各分科会委員，分科会長・副分科会長の選任について</p> <p>引き続き，副会長及び分科会長・副分科会長の選任を行いたい。まずは，事務局案を伺いたいと思う。</p> <p>事務局案を配布</p> <p>事務局案について意見があればお願いします。</p> <p>異議なし</p> <p>それでは，副会長及び分科会長・副分科会長は事務局案のとおりとする。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>横尾会長</p> <p>委員一同</p> <p>横尾会長</p> <p>青木委員</p> <p>荒牧委員</p>	<p>(5) 第6次宇都宮市総合計画改定基本計画策定方針等について</p> <p>資料4及び資料4 別紙2の説明</p> <p>ここまでの説明について，質問などはあるか。</p> <p>特になし</p> <p>無いようなので，資料4 別紙2に基づき，改定に向けて捉えるべき重点課題について意見交換を行いたいと思う。青木委員より，順に委員の皆様から一通りご発言いただきたい。</p> <p>重点課題の4つそれぞれが関連していると感じた。複合的な課題への対応が必要だということを共有した上で議論を進めていきたい。</p> <p>脱炭素社会に関しては，地球温暖化といっても，環境保全型や気候変動適応型とある。複合的な形で議論していきたい。</p> <p>10月にLRTの車両基地を見学し，宇都宮の明るい未来を</p>

感じる事ができた。

また、市の障がい福祉課の事業である障がい者の方の就労支援施設の見学に行く機会があった。宇都宮市に40年近く住んでいるが、まだまだ知らない宇都宮があると感じた。様々な方々が見える社会になっていくとよいと思う。様々な方々と一緒にどういう社会になっていくとよいのかを考えていきたい。

池村委員

栃木県建築士会に所属している。人口減少、少子高齢化社会にあっては、特に工事の職人たちの高齢化が進み、次世代の職人が減少していることが課題である。

新型コロナウイルス感染症の影響で、都市から地方への移住が増えている。宇都宮市は都心からの距離が近いので、これから人を呼び込める可能性があると思うので、魅力的なまちづくりができればと思う。

石井委員

小中学校の学校現場への保護者、地域の関わりが難しくなっている。私自身、宇都宮市の魅力ある学校づくり地域協議会にも関わっており、小中学校を核にしたまちづくりについて、どのようにして学校の安全・安心を確保しながら、地域の保護者の方たちや地域の事業者の方たちが力を発揮できるのかという課題に対して、もう少し力を入れていく必要があると思う。GIGAスクールにも関心がある。

総合計画自体が、市民のレベルまで周知が行き届いていないことが課題である。高校生が短期学習や総合学習を通じて、地域や政策との関わりを深めるような教育体制が進みつつあると思う。総合計画においても、高校生あるいは大学生の参画が進められるとよいと思う。高校生や大学生が総合計画の検討会を行うなど、モデル的な取組を進められるとよいと思う。

市田委員

金融機関の立場では、取引先の企業で脱炭素化の取組が進んでおり、脱炭素化の要請を強く感じている。脱炭素化が進まない、環境に配慮しない、あるいはその余裕のない企業との取引が厳しくなっている。大きくビジネスモデルが変わってきている時代の中で、地域企業を自治体や地域の金融機関が支援していくことが必要と考える。脱炭素化の支援によって地域経済に好循環を生むような施策に力を入れていく必要がある。

岩井委員

計画を実現していくプロセスに関して、市民と一緒に実現す

るような仕掛けを話し合えるような場が大切だと思う。

若者が小さな子どもに関わる文化がなくなりつつあることが、少子化を加速している一因になっていると思う。若者と子どもに関わり合いをどのように作っていくのが課題である。

デジタル、DX化において、課題とアイデアを重ねることが重要だと思う。

環境問題に関しては、大手企業ではESG投資に力を入れてきていると感じる。

新たな価値観に関して、評価軸の見直しも必要になってくると思う。

上野委員

少子高齢化によって全てのパイが小さくなることが一つの課題である。今だけではなく、先を見て考えること、具体的には子どもを巻き込んでいくことが必要だと思う。新型コロナウイルス感染症をはじめとした外部的要因のスピード感が大きく、我々自身が付いていけなく、先を正確に見極められない部分がある。現在の経済活動を動かしている人の目線や子ども達の目線の両方をにらみながら底上げをしていくことが必要だと思う。

河又委員

どの市町村も同様の課題を抱える中で、県庁所在地かつ中核市の宇都宮市には、他の自治体の模範となるような目標を掲げてほしい。

宇都宮市で思ったよりも少子化が進んでいることに驚いた。子育て支援について、より特色のあるもの、子育て世帯がここに住みたいと思ってもらえるようなものを考えていきたい。

脱炭素化に向けても宇都宮市が模範となるような目標を掲げて進めてほしい。宇都宮市及び市民がどう進めていくのかを強く打ち出して、市民や他自治体に向けてPRしてほしい。

若者の投票率が下がっている。若者になる前の子どもの段階で社会に関わっていく仕組みをつくってほしい。

木村委員

団体でセミナーや研修会を実施している。アンケートをとる際に性別を3種類で聞いているが、必ずその他と回答される方がいる。女性活躍と共に、多様な社会への適応が必要と考える。

防災については、地球温暖化や気候変動等と災害との関わりを知ること、それに市民一人ひとりがどう取り組んでいけるのかを学ぶことが大切だと考える。市民一人ひとりが現実を知っ

塩崎委員

て、その中でどう取り組んでいく必要があるのかを示す計画になるとよい。

脱炭素社会について、国としても取組を進めており、各個人の過程でも対策できることがあると思う。自動車を作る時点でも二酸化炭素が発生する。栃木県はものづくりの県であることから、宇都宮市では、脱炭素社会の実現に向けて、産業界を巻き込んで活動できるとよい。

10年後、20年後の未来の子ども達が今のような生活を過ごせるのか、不安に思う。議員をはじめ、色々な立場の人を巻き込んで議論してほしい。

謝委員

外国人として、13年間宇都宮市に住んでいる。

人口減少下で、現役世代の生産性をどう向上させていくのかが課題だと考える。日本の生産性は停滞しており、先進国の中でも遅れている現状がある。宇都宮市はLRTの整備など交通の面で発展していると思う。また、新型コロナウイルス感染症を機に、テレワークの良さが広まっていると感じる。そのようなテクノロジーの発展もうまく取り入れていけるとよい。

私自身、高校生の子どもがいるが、市にどれだけ関心があるのかを聞くと、あまり関心がないと言われる。若い世代にどのように関心を持ってもらうのかは課題である。

中村委員

現在85歳で、現役で東南アジアの環境コンサルタントに従事している。日本の先進的な取組を学んで、東南アジアの国々に共有できればと思っている。

宇都宮市から繁華街が消滅していることを実感している。

永井委員

地域のまちづくりでは、ボランティア活動のこれからの担い手確保が厳しい現状である。自治会においても担い手不足が課題となっている。これらの課題を総合的に解決していかないと、計画があっても、活動する現場の方々に真剣に取り組んでもらえるのか心配である。大きな計画も重要だが、手元にある小さな課題の一つ一つについて、スピード感をもって進めていくことも重要である。市民ができることから進めていくことで、目標に近付けるのではないかと思う。

永吉委員

スーパースマートシティについて、素晴らしい考え方だと思う。これを市民にどう知ってもらえるのかが大切である。

	<p>SNSでの意見交換の取組について、どのように公募を行っているのか疑問に思った。SNSでの取組であっても、チラシでの周知を行っているのであれば、公募の方法についても色々な手法を考えていく必要があると思う。</p>
<p>新村委員</p>	<p>カーボンニュートラルについて、言葉としてはよく聞いても、市民の生活にどのように関わるのか、企業にどのような影響があるのかは分かっていないのが実態だと思う。市民や企業が具体的にどう関わるのか、それぞれが何をしたらいいのか、計画に分かりやすく盛り込んでいけるとよい。</p>
<p>檜原委員</p>	<p>人口減少について、人が多くなることが目標の1つだと思う。これは自然増だけでは難しく、社会増が必要である。宇都宮に来てもらう、住んでもらうためには、仕事、経済が一番重要だと思う。リモートワークが普及しても、完全にリモートワークで生活できる人は限られると思う。仕事の充実や経済の発展に力を入れることが、働く世代に来てもらい、次の世代を育ててもらうために重要だと思う。経済の活性化、仕事をどうやってつくるのが課題となる。</p>
<p>平手委員</p>	<p>最近、コロナ禍で収入が減少した人を対象とした特例貸付の件数がNHKで特集されていた。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後、このような方々がすぐに回復できるかという点と難しいと思う。生活困窮者への支援策や支援の体制も課題である。</p> <p>地域共生社会の構築に向けて様々な制度やシステムの整備が進むと思う。しかし、それを支える、また、けん引することができる、コーディネートできる人材も必要である。地域の課題は複雑化する中で、専門性を持った人材をどう確保・育成するのが課題であり、ぜひ人づくりにも取り組んでいただきたい。</p>
<p>福田 晴一委員</p>	<p>DX化について、市と一体となって管理・連携していくことが重要だと考える。スピードを意識し、試しながら実行していく手法が注目されている。</p>
<p>福田 治久委員</p>	<p>子どもが減っているからといって子育ての手間が少なくなる訳ではない。最近ニュースであった中学生の殺傷事件と同様のショッキングな事件が宇都宮市でも日々起きているのが現状である。子育てするなら宇都宮市しかないと思ってもらえるまち</p>

にしないと未来はないと思う。

新型コロナウイルス感染症について、この事態が価値観の変容で終わるのか、人類が進化を迎えるのか、先を見据えないと計画の前提が崩れてしまうと思う。

吉澤委員

自治会は、人口減少、超高齢化をまともに受けている団体である。お年寄りが、いかにして楽しく安全に安心して暮らせるかを考えている。高齢者は必ず何かしらで困っているの、地域、特に若い方たちに力を貸してもらえる社会になるとよい。

LRTの整備を契機とし、駅前の魅力化を進め、コンパクトシティを実現してほしい。

三尾谷委員

男女共同参画社会の実現を目指す市民会議で活動している。少子高齢化について、都市からの還流を目指すべきと考える。新しい生活様式への転換による若者の地方移住への関心の高まりを踏まえ、宇都宮の人口増につなげていきたい。

水越委員

市民の皆様を理解し、実行してもらえる計画とすることが重要である。また、計画を支える次世代の方たちの考えをどう盛り込んでいくかが課題である。次世代の方たちが自分ごととして実感して、実行に移せるような計画とすることが私たちの責任と考える。

空き家の問題、独居老人の問題がある。若い人と高齢者をどうつないでいくのが課題である。

高齢化を含めて考えると、デジタル難民を発生させないことが重要と考える。

カーボンニュートラルについて、市民がどう実感しているのか、宇都宮市のどこに脱炭素社会の課題があるのかを市民に知らしめないと改善していかないとと思う。

新型コロナウイルス感染症によって、テレワークなど生活様式が変化している。しかし、テレワークが一過性のものなのか、定着するのが問題となる。

三宅委員

脱炭素社会の実現について、とんがった宇都宮、魅力ある宇都宮をつくることを目指したい。宇都宮市ではゼロカーボンシティの宣言を9月に表明しており、これからが本番となる。計画策定にあたって、様々な施策の一つ一つが脱炭素に有効かどうかをチェックすることも必要だと考える。

渡辺委員

評価指標について、現状と目標を可視化することが決め手になると考える。適切な評価指標が見つからないものに対しては無理に行う必要はない。例えば、脱炭素社会について、宇都宮市の炭素排出量を答えられる人は少ないと思う。そういったものを可視化し、状況が把握できるようにすることが重要である。それが、モチベーションにもつながる。現状認識のための可視化に取り組んでいただきたい。

コロナ禍でのテレワークの普及等の生活様式の変化について、元に戻さないという意志でテレワークの推進を進めていくことが必要だと考える。全ての人が自宅でできるわけではないので、例えばNCCの拠点にサテライトオフィス・サテライトキャンパスを整備することも有効だと考える。そこに行けばスマートフォンやPCの使い方を教えてもらえるような仕組みをつくることで、デジタル難民の解消にもつながり、自転車通勤圏にそのような施設ができることで、自動車通勤の減少にも効果があると思う。皆さんと議論しながら、より良いアイデアを考えていきたい。

蟹江副会長

政策を考えるにあたって、現状の共通認識をどうつくっていくのかが重要である。

今日、宇都宮市で少子化が進んでいることを伺って驚いた。宇都宮市は全国で子育てしやすいまちのナンバー1に選ばれたこともあり、少子化の進行も食い止められていると思っていた。少子化については国の調査も大きく進んでいる。0人から1人の出生は結婚するかどうか、1人から2人の出生は夫や周りの子育てへのサポートがどれだけあるか、2人から3人の出生は経済的な問題であるということが分かってきている。宇都宮市で少子化が進んでいる要因として、何の影響が大きいのか、そこに深く踏み込んでいくことが必要だと思う。そのためにも、現状認識が非常に重要である。委員全員が現状について、共通認識を持てるデータを示してもらえると、今後の議論に有益と思う。

横尾会長

現状認識や提案について意見をいただいた。各分科会で議論していただき、総合計画の改定に生かしていきたい。

次はスーパースmartシティについて意見をいただきたい。スマートシティは世界的に規格化が進んでおり、宇都宮市が世界に打ってでていくための1つの手段として有効だと思う。

	<p>渡辺委員から口火を切っていただき、その後自由に意見をいただきたい。</p>
渡辺委員	<p>スマートシティのコンセプトはとてもよいと思う。実際に目指せるのかどうか、きちんと現状認識が必要だと感じた。スマートシティやDX, AIを魔法のツールと思っている人もいるが、そうではないことを進めていく人たちで認識が必要である。</p> <p>スマートシティを進めるためにはコストもかかるので、宇都宮市で何を進めていくべきなのか選択が必要である。市内でスマートシティの取組がどれだけ進んでいるのかも情報共有が必要である。スマートシティが実現していないところでスーパースmartシティに取り組むということで、痛みも伴うと思う。目標を決めて、そこに注力していくことでうまく進むのではないかと思う。</p>
横尾会長	<p>私はどちらかというとな楽観的に考えている。それだけの都市力を宇都宮市は持っているのではないかと思う。渡辺委員の言うとおり、どこに注力していくのかが重要だと思う。</p>
三宅委員	<p>内部ではなく外部から見て宇都宮を魅力的なものに感じてもらえる計画とすることが大事である。そのためのキャッチコピーがスーパースmartシティになると思う。多少脚色してもよいと思う。</p>
横尾会長	<p>国際標準化機構（ISO）でも、世界でスマートシティに取り組んでいる都市のケーススタディを行っているが、日本からの事例は出ていない。そのような、宇都宮市をPRする機会がたくさんあると思う。宇都宮市をどう見てもらえるか、そのためのツールとしても使えると思う。</p>
岩井委員	<p>スーパースmartシティの概念は素晴らしいと思う。しかし、実行には大きな痛み、ストレスがあると思う。我々1人ひとりが既存の役割を変化させ、新しい役割を再設定する必要があり、そこに挑まないとな新しい概念をこのまちで実現することが難しいと思う。市民1人ひとりがどう新しい役割をつくっていくのか、そのプロセスに何を仕込んでいくのかが課題だと思う。</p>
横尾会長	<p>コロナ禍で外部条件が大きく変化し、色々なことを変えながら活動してきたが、その動きに拍車がかかっていると思う。どこ</p>

謝委員	<p>かの部分ではストレスが発生するので、フォローが必要となる。</p> <p>デジタル化は使いやすくなる一方、市民目線では個人情報の保護の観点も重要となる。どのようにセキュリティを確保していくのかについて関心がある。</p>
横尾会長	<p>個人情報の保護の観点はますます重要なものになる。情報がネットワークで管理されていくという動きの中で、十分な対応が求められる。</p>
永井委員	<p>市民一人ひとりのところまで、スーパースマートシティの考えをどう理解して支持してもらうのが課題だと思う。その点が議論のポイントになってほしい。</p>
横尾会長	<p>新しい取組をしていく時に、市民の皆さんの理解が必要不可欠だと思う。総合計画の改定の中で位置付けていきたい。第6次総合計画では、共創という言葉が使われているが、色々な人が共につくっていくことが大切だと思う。今日の発言でも人に着目したものが多かった。市民の人たち、市外の人たちとどう関わっていくのかという視点も重要と感じた。</p>
石井委員	<p>小学校、中学校を対象とした人づくりに力を入れていきたい。小学校や中学校から知識が伝播することがある。スマートシティが、教育から子どもの遊びや家族にどう影響するのかということの実践の場として、宇都宮のスーパースマートシティを展開していけるとよいのではないかと感じた。</p>
横尾会長	<p>小中学校の子どもの学びを通して大人に伝えていくというアプローチもあると思う。</p> <p>全体を通して、意見等があれば挙手していただきたい。</p>
上野委員	<p>分かりやすさが重要だと思う。文言や発信手法が分かりやすいこと、また、自分に対して身近に思えるかどうかを意識するとよいものになると思う。</p> <p>宇都宮らしさが欠けてしまうと面白くないので、肝として入れてほしい。</p>
横尾会長	<p>スーパースマートシティのポンチ絵を見ると、どこの都市でも同じように見えてしまう。表現は難しいとは思いますが、宇都宮らしさを盛り込み、なるべく多くの人に共感してもらえる計画になるとよい。</p>

岩井委員	<p>Uスマート推進協議会の実績など、個別に事務局に問い合わせても問題ないのか。</p>
事務局	<p>担当部署に伝えた上で、連絡が取れるように調整させていただく。</p>
石井委員	<p>宇都宮市の人口動態を見ると、高校卒業時に出て行って戻って来ない人が多く、県内からの流入で人口を維持している状況である。多くの高校生にとって、高校生活が宇都宮市にいる最後の3年間になる。基礎自治体として、高校へのアプローチは難しいと思うが、県立高校等に関わりを増やしていくことが期待できないか。</p> <p>環境学習や総合学習などを通して、進学校等も地域への関わりを増やしつつある。</p>
横尾会長	<p>高校生のうちにロールモデルになるような人に会う機会をつくることで、戻ってくる機会が増えると思う。なるべく良いところを見せるといったことも必要だと思う。</p>
事務局 横尾会長 三宅委員 事務局	<p>(6) 懇談会の進め方について</p> <p>資料5の説明</p> <p>ここまでの説明について、質問などはあるか。</p> <p>資料を事前に配布してもらえると予習ができるので、お願いしたい。</p> <p>事前に配布するよう努力する。</p>